

世界のコインを楽しむ

第83回

平石 国雄

神聖ローマ帝国の大型銀貨 (1)



神聖ローマ帝国の大型銀貨はジギスムント大公の一四八六年銘グルディナーより始まる。以降ハプスブルク家の一人の皇帝と七人の大公が大型銀貨を出しているが、ここでは原則皇帝のみを対象とする。また、マキシミリアン一世（在位一四九三～一五一九年）の大型銀貨は非常に高価なため対象外とする。なお神聖ローマ皇帝の大型銀貨の分類はダベンポルト・カタログがポピュラーなので、このカタログ番号（「D」の後に数字三～四桁）を記す。

今回はフェルディナント一世（ローマ王一五三二～五六、皇帝一五五六～六四年）のターレル銀貨を扱う。カール五世（皇帝一五一九～五六六年）は神聖ローマ皇帝在位中もスペイン王としてスペインの支配地を担当し、皇帝即位前の弟であるフェルディナント一世にドイツ地域の支配を任せている。

フェルディナント一世の大型銀貨は、ダベンポルト・カタログに五〇タイプのターレルと五タイプのニターレルが記載されている。一〇箇所のミントで作られているが、入手が容易なミントはハル、クレムニッツ、クッテンベルク、ヨアヒムスタールである。表面にはフェルディナント一世の半身像が描かれ、裏面には単頭あるいは双頭のワシが描かれているものが大半である。なおワシの中央前面には紋章が描かれている。

ハル鑄ターレル無年銘（D八〇二六、写真①）、クレムニッツ鑄ターレル一五五六年（D八〇三二、写真②）、クッテンベルク鑄ターレル一五六一年（D八〇五〇、写真③）の写真掲載する。写真①のターレルは表面銘文の「R.O. : REX」より、ローマ王であった一五三二～五六六年に作られたことがわかる。顎髭のない若い肖像から判断すると、一五三二～四〇年頃の作と思われる。なお写真③のターレルは皇帝即位後なので、表面銘文には「IMP」（インペラートル、皇帝）と記されている。また写真②のクレムニッツ鑄ターレルは薄手で直径が大きく作られており、裏面上部に小さな聖母子半身像が描かれている。



写真③ クッテンベルク鑄ターレル銀貨
1561年

写真② クレムニッツ鑄ターレル銀貨
1556年

写真① ハル鑄ターレル銀貨 無年銘